

(別紙)

水産業共同利用施設復旧整備事業に係る事後評価報告書(岩手県)

計画内容			事業 完了 年度	評価 年度	評価の結果				
計画 年度	番号	施設名			成果目標 (考え方)			現状値の説明	都道府県の 評価結果
					目標値		現状値		
H30	1	水産物荷さばき施設	H30	R6	生食用殻付カキの年間販売個数 190万個/年	過去3ヶ年(H26～H28年度)の平均販売個数 ※施設整備計画時の考え方を記載	元年度231万個/年(122%) 2年度204万個/年(107%) 3年度181万個/年(95%) 4年度175万個/年(92%) 5年度152万個/年(80%)	荷さばき施設整備後は、計画通りに施設を利用しているものの、現状値は毎年度減少傾向にあり、令和3年度以降は目標値を下回った。 令和3年度は新型コロナウイルス感染症による需要減少が大きく影響、令和4年度は需要回復途上であったことが影響し目標値を下回る結果となった。 令和5年度については、原因が明らかになっていないものの、令和3年度以降目立っていた出荷段階でのへい死カキの確認が著しく増加した影響で減産となり、結果として出荷個数が目標を下回った。 なお、過去5か年の目標値に対する達成率は平均で99%であった。	施設の整備により、生食用殻付カキの出荷作業の効率化が図られるなど、地域の水産業の復興に大きく寄与している。 一方、令和3年度以降は、新型コロナウイルス感染症やへい死の影響による販売個数の減少が続いている。特に、令和5年度の販売個数の減少はカキの顕著なへい死が要因となっている。 カキのへい死が増加した原因は不明であることから、現在、漁協と県による生産者からの聞き取りを実施しており、漁場別・地区別、垂下水深別のへい死状況等の実態把握に努め、国研究機関等の助言や隣県の対応状況も参考としながらへい死原因を特定し、対策を講ずることとしている。
H30	2	漁港環境施設(田老漁港)	H30	R6	365日	利用状況の回復を図り、利用日数(365日)を被災前と同程度とする。	365日	公園の復旧により震災前と同様に利用が図られた。 (達成率89%) ※漁業者1人当たりの使用水量を達成率の指標としており、震災前と令和5年度を比較して89%としている	漁港環境施設(公園)の整備により漁業者の就労環境が向上し、地域の水産業の復興に大きく寄与している。